「前歯部コンポジットレジン直接修復からみる構造特性と色彩・光学」

佐々木 ミッシェル

間接修復処置を行う際、生物学的配慮に加え技工操作に支障をきたさない条件を整えることに意識が集中してしまい、咬合や外形への想いはあれど、色等に関しては基礎教育を受けた記憶すらなく歯科技工士さんの英知にすがることが常でした。
一方直接修復においては、ボンディングシステムの進化とともに充填用コンポジットレジンもフィラーの種類やサイズ等の工夫がなされ長期安定性も得られるようになり審美性の求められる場面での応用が広っていますが、従来の「詰める」発想で蓄積された知見・経験では対応困難でさらなる発想の必要性を感じ悪戦苦闘しています。
そこで、歯科医師は「わかっていない」一端を紹介させていただき、直接・間接修復にかかわらず 、これからの患者さんを含めたコミュニケーションの一助になればと、お話しさせていただきます。

「チーム医療におけるラボセクションの重要性　～審査診断から補綴製作まで～」

関　克哉

審美領域に限らず歯冠修復治療とは、チェアサイドとラボサイドによる綿密な審査診断に基づき、術者両者が患者の希望を共有して同じゴールを設定したうえで、互いの持つ技術を注ぎ込むものだと考える。

患者が望む補綴治療を行うためには、機能は勿論のこと色調および形態の歯周組織との調和、周囲歯列との調和、口唇との調和、清掃性への考慮など多岐にわたる項目をクリアする必要がある。加えて、それらをラボサイドで製作するにあたってチェアサイドとの様々なコミュニケーションツールが必要となってくる。

本公演では、自身が補綴物製作する上で担当歯科医師と共有しているコミュニケーションツール（印象、模型、シェード写真や製作工程表など）を解説いたします。